

台風のシーズンより

温暖化による気象異常が始まったとも言われる8世紀、「続日本紀」秋の項に「雷雨異^{ナル}常^ト」「山岳頽崩^{たふほシ}」「埋^{ムル}田^タ畝^ム」と記されている。おそらく大風による被害は奈良への重要報告案件であったであろう。昨今の凄まじい大地震、台風、豪雨などの天変地異を、古人なら天の怒りにとらえたと思う。現代科学は人災として時に文明を糾弾し、社会経済の有り方に警戒を発している。

▼石狩の沖から漁り火が消えつつある。瀬棚では大真鯛が釣れたと報告された。宗谷海峡は津軽海峡のイカの引越し先となっている。市民グループの手による落花生は商品化の域に達し、サツマイモは今や石狩産の焼酎「芋男^{いもだん}氣」として愛飲家の支持を得ている。温度が1℃上昇すると環境質は大きく変化するとされて、その例は枚挙に暇がないほど身近なものとなった。▼歴史から見ると政治と気象とは大いに因果関係を持っている。人として存在を主張せざるを得ないほど極度な困難性に至ると、民意は政策を変え政変へと動かす大きな動機付けとなっている。現代においても物騒なものが空から来襲することが取りざたされている。自然現象とは根本的に異なるものではあるが、コントロール不能の点では同じだ。被害者は「無^む辜^この民」であることは違いない。(市長)

広告